

山梨市立義務教育学校設置基本計画

令和7年10月

山梨市教育委員会

目次

序章 はじめに	2
第1章 基本計画策定	
1-1. 基本計画策定の目的	3
1-2. 山梨市の目指す教育方針	3
1-3. 山梨市の目指す義務教育学校設置の基本方針	4
1-4. 山梨市立義務教育設置検討委員会の設置	4
1-5. 設置検討委員会の組織	5
1-6. 設置検討委員会での検討工程	6
第2章 義務教育学校「笛川学園」の目指す教育	
2-1. 義務教育学校「笛川学園」の目指す教育	7
2-2. 義務教育学校「笛川学園」の特色ある教育	8
2-3. 児童生徒数の推移	8
2-4. 学級数の推移	9
2-5. 教職員配置	9
2-6. 通学区特認校制度の導入	10
2-7. スクールバスの運行計画	10
第3章 学校施設の在り方	
3-1. 学校施設整備の基本計画の位置づけ	11
3-2. 既存施設の概要と現状	12
第4章 施設計画の方針	
4-1. 学校施設の施設整備の方針	19
4-2. 学校施設的环境	20
4-3. 敷地条件・インフラ条件	23
4-4. 施設規模・施設構成	23
4-5. 配置計画の方針	24
4-6. 平面計画の方針	25
4-7. 構造計画の整備方針	25
4-8. 設備計画の整備方針	25
第5章 事業スケジュール	
5-1. 開校までの事業スケジュール案	30 (別紙)

序章 はじめに

本市では、第2次山梨市まちづくり総合計画長期ビジョンや第2期中期計画、その他関係計画から導き出された「デジタル技術（教育 DX）」、「SDGs」、「寄り添った教育」、「多様性（ダイバーシティ）」、「郷土愛」を新たな視点として、令和5年3月に「山梨市教育大綱」を改定しました。

これまで本市は、子どもたちが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む教育に積極的に取り組み、夢の実現に向かってしっかりと努力し、ふるさとの発展を志向できる子どもの育成に注力してきました。

今後も、子どもたちの「生きる力」を育む学校教育を推進するとともに、幅広い分野で多くの市民の皆様に子どもたちの「学び」と「育ち」を支えていただいていることから「地域とつながる学校」の建設に努めます。

また、市民の皆様の「学びの機会を広げる」や「教育の質を高める」といった観点から、社会教育の推進が今まで以上に重要になります。現在も社会教育・地域コミュニティの中核施設としての役割を果たしている公民館においては、人づくりにとどまらず、人と人とのつながりづくりを進め、環境、地域福祉、防災など、住民の自助・共助による持続可能な地域づくりを目指します。

本市では、今後も、新しい教育大綱の下で本市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図っていきます。

改定した「山梨市教育大綱」のもと、令和6年4月に、特色ある学校教育の推進に向け、本市の学校教育の在り方を検討するため、「山梨市学校のあり方検討委員会」を設置し、本市の学校の在り方について検討を進めてきました。

検討の結果、笛川小学校、笛川中学校の学区である牧丘・三富地区では、児童生徒数の減少だけをとらえた安易な統廃合を進めるべきでなく、これまでのコミュニティ・スクールなど小学校・中学校の一体となった教育活動を行ってきた経緯と成果を活かし、令和8年4月に新たな義務教育学校を開設していくことを目指すことが確認されました。令和7年4月からは、義務教育学校開設に向けた実証・研究を行っています。

本計画では、「山梨市学校の在り方検討委員会」の検討・確認内容を踏まえ、令和7年4月に設置した「山梨市義務教育学校設置検討委員会」での検討をもとに、義務教育学校での教育の基本方針、学校施設の在り方や施設計画の方針・事業スケジュールなどの考え方を整備方針としてまとめます。今後、教育内容の実証・研究、整備方針の検討を進める中で、適宜改善や見直しを図りながら、「通いたい、通わせたい」といわれる義務教育学校の実現に向けて邁進してまいります。

令和7年10月 山梨市教育委員会

第1章 基本計画策定

1-1. 基本計画策定の目的

本基本計画では、「山梨市義務教育学校設置検討委員会」の検討内容を踏まえ、笛川小学校、笛川中学校が統合し、義務教育学校として新しく開校する「笛川学園」の「目指す教育方針」や「施設設備の基本方針」の具体化を図ることを目的とします。

1-2. 山梨市の目指す教育方針（山梨市教育大綱）

（1）将来像

「誇れる日本を、ここ山梨市から。」

本市には自然や景観を含め、全国のどこよりも誇れるものがあり、それらを市民とともに守り、積極的に発信していきます。

また、これからの時代の変化に合わせ、日本の先端をいくような取り組みにも挑戦し続け、誇れるものを生み出していく山梨市を目指します。

（2）山梨市の大切にしたい価値観

本市では、歴史と伝統に根ざしながら、そこに暮らす一人ひとりを尊重した温もりのある地域が形づくられてきました。

そうした市民生活のなかで共有されてきた思いを体して、次の三つをこれからの本市まちづくりにあたって大切にしていきたい価値観として 位置付けます。

人のつながりとコミュニティを大切にしていきたい

本市では自治会への加入率が全国平均より高く、地域コミュニティがしっかりと根付いています。

こうした自治会をはじめとした開かれたコミュニティで、様々な人々がつながりながら、地域課題を解決していきます。

そうした人のつながりと、コミュニティを大切にしたいまちづくりを進めていきます。

自然と共生する暮らしを大切にしていきたい

本市では面積の8割を森林が占め、果樹を中心とした農業が基幹産業となっており、市民は都会の人々がうらやむような、自然に囲まれたのどかな生活を享受しています。

やみくもに開発を進めるのではなく、豊かな自然や果樹園の風景の中で落ち着いて暮らせる環境を大切にしながらまちづくりを進めていきます。

伝統と先進性が共存する気風を大切にしていきたい

本市には数多くの伝統・文化が存在し、脈々と地域に引き継がれてきました。

それらの良き伝統を守りながらも、将来を見据え、時代の変化にも対応しつつ、先進的なことにも臆することなくチャレンジしていく。そうした気風を大切にしながらまちづくりを進めていきます。

（3）教育理念

第2次山梨市まちづくり総合計画長期ビジョンでは、市民の一人ひとりの生き方や暮らし方に視点をおきつつ、将来にわたりこうありたいと考える5つの目指すべき姿をあらわしています。

このうち、以下にある教育文化に係る姿（ビジョン）を、本大綱の教育理念とします。

「市民が手をつなぎ、教育と文化を育む山梨市」

本市では、世代を超えた地域コミュニティが活発で、各地の文化財・伝統芸能を発表し合い、地域の宝である子どもたちのために、学校と連携して豊かな活動を活発に行っています。

多くの市民は、文化を楽しみ心豊かな生活を送ることができ、子どもたちは、確かな学力や社会で必要な素養を身に着けて、立派に育ちゆくことをビジョンとして掲げます。

1-3. 山梨市の目指す義務教育学校整備の基本方針

笛川小学校、笛川中学校を統合して開設する義務教育学校「笛川学園」の整備に向けての基本方針を次のとおり示します。

*学校の存続と魅力ある学校づくり

- 児童生徒数だけをとらえた安易な統廃合はすべきではない
- 義務教育学校開設に向けた実証・研究を、令和7年度から進める

(1) 実証・研究を通して進めて行くこと

- | |
|----------------------------|
| ①専科指導、教科担任制の実証 |
| ②縦割りグループによる問題発見・課題解決型学習の実証 |
| ③小中学校の児童生徒及び教職員の交流 |
| ④9年間を見通した学習指導や生徒指導の計画作成 |
| ○課題点と解決策の確認 |
| ○保護者・地域への丁寧な情報提供と意見聴取 |
| ○義務教育学校開設に向けた準備 |

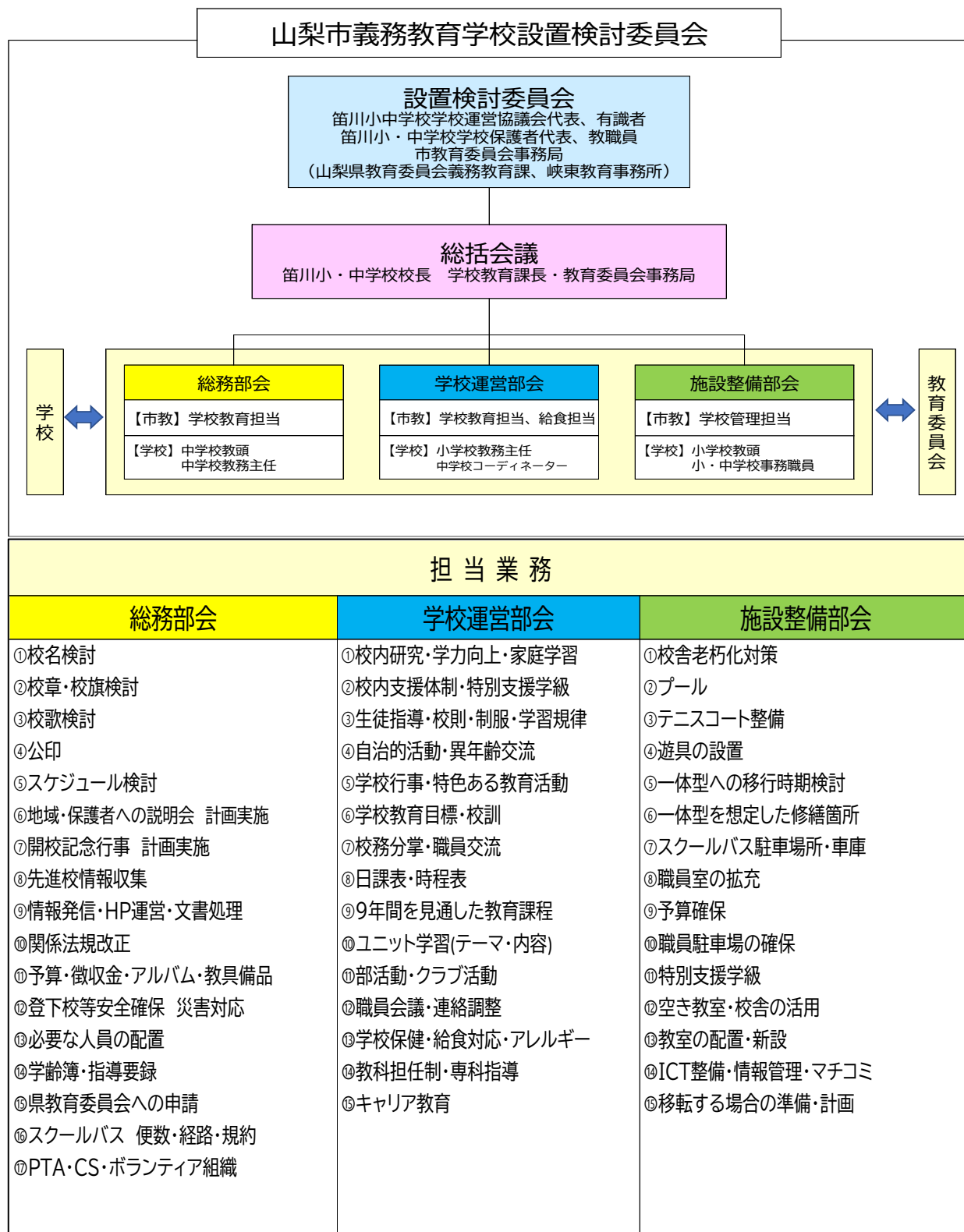
(2) 開校

現笛川小学校・笛川中学校の校舎を利用した分離型での義務教育学校の開校は、令和8年4月を目指します。また、現笛川中学校校地において一体型校舎での授業開始を令和10年度から開始することを目指し、校舎の改修・増築、校庭等の整備を進めていきます。

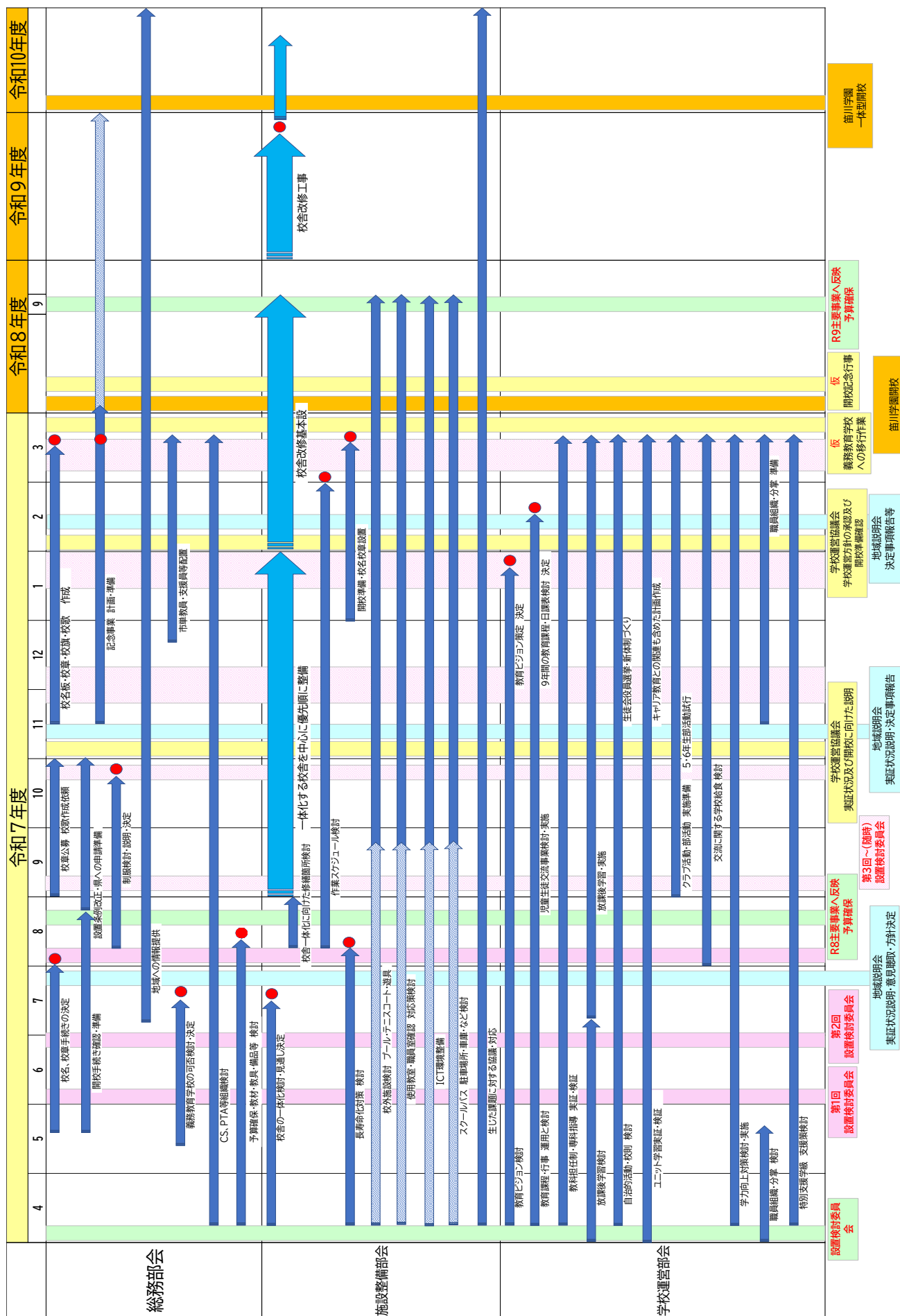
1-4. 山梨市立義務教育設置検討委員会の設置

山梨市の目指す義務教育学校開設の基本方針に基づき、「山梨市立義務教育学校設置検討委員会」（以下：設置検討委員会）を設置し、義務教育学校「笛川学園」の開校に向けた検討を行っています。

1-5. 設置検討委員会の組織



1-6. 設置検討委員会での検討工程（予定）



第2章 義務教育学校「笛川学園」の目指す教育

2-1. 義務教育学校「笛川学園」の目指す教育

(1) 9年間を見通した系統的な教育

○一貫した教育課程の編成

小学校と中学校の教員が一体となり、9年間を通して子どもたちが身につけるべき資質・能力を共有し、系統的な教育課程を編成・実施します。

○「中1ギャップ」の解消

小学校から中学校への進学時に、学習や生活面で子どもたちが直面する不適応（中1ギャップ）を緩和・解消することを目指します。

○教科担任制の推進

特に小学校高学年で教科担任制を導入することで、教科指導の専門性を高め、中学校の学習へ円滑につなげます。

○教員の専門性の活用

中学校教員の専門性を小学校課程での授業に活かすなど、教員間の連携による指導力の向上が期待できます。

(2) 子どもの成長に合わせた柔軟な教育

○柔軟な学年区分の設定

従来の「6-3制」にこだわらず、9年間を「4-4-1」や「4-3-2」のように、子どもの心身の発達段階や教育課程に応じて柔軟に区分することが可能です。

○独自のカリキュラム

9年間の一貫教育の軸となる独自の教科を創設したり、指導内容の入れ替えを行ったりするなど、学校の裁量で柔軟な学校運営が認められています。

(3) 社会性の育成と人間形成

○異学年交流の促進

1年生から9年生までが同じ校舎で学ぶことで、異学年交流、交流学习が活発になり、リーダーシップや思いやり、社会性の育成が期待できます。

○継続的な生徒指導

9年間を通して同じ教職員組織が子どもたちを指導するため、情報を共有しやすく、子どもの個性をより深く理解し、きめ細やかな指導や支援を行うことが可能となります。

(4) 豊かな「人間力」の育成

○知・徳・体のバランス

学力だけでなく、豊かな感性や道徳心、体力、精神力など、知・徳・体の調和の取れた人格を育てることを重視しています。

○生きる力の基礎づくり

社会に生きる市民として、職業生活、市民生活、文化生活などを充実して過ごせるような、生涯にわたって生き抜く力を育むことを目指します。

(5) 地域とともにある学校づくり

○コミュニティ・スクール

地域の歴史や文化、産業に根ざした教育を展開し、子どもたちが「生きた学び」を体験し、地域への誇りや愛着を育むことを目指します。また、保護者や地域住民との連携・協働を通じて、学校運営の信頼性と継続性を高めます。

2-2. 義務教育学校「笛川学園」の特色ある教育

義務教育学校の特性を柔軟に活用し、前項で示した「笛川学園」での「目指す教育」の実現にむけ、特色ある教育を推進していきます。

学 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
課 程	前期課程				中期課程				後期課程
学年主任制 (前期課程)	前期課程に、低学年主任、中学年主任を配置し、「小1プロブレム」の解消や確実な基礎学力の定着やきめ細かな指導・支援を行う。								
	低学年主任		中学年主任				(中学校学年主任)		
小学校課程 段階での教科担任制	図工・音楽・家庭科・算数・理科・外国語において、専門教師の専門性を生かした教科担任による授業を行う。								
	図工	(図工)	図工 外国語活動	図工 外国語活動	理科、音楽 図工、家庭科 外国語	算数、理科 音楽、家庭科 図工、外国語	(中学校教科担任制)		
教科横断的・ 総合的な学習	市内にある素材・人材・フィールドを活用した教科横断的・総合的学習を通して、学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えや想いに共鳴し合い、共感い合える児童生徒の育成する。								
			フルーツ山梨 果実農家体験	米作り 野菜作り	森と水 自然体験	Yamanashi- City SDG's テーマ研究発表	地域行事地 域資源	国際交流事業	山梨未来プロジェクト 市長への提案
教育ファーム 農業体験学習	地域や児童生徒の実態に応じた学校園場を活用した農業体験を通して、農業のすばらしさに気づき、命や人との絆を大切に、持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決していく力を育成する。								
問題発見・ 課題解決型学習 (笛川PBL)					課題解決を目的に、グループ協議・活動記録の作成・自己学習・成果発表等を通して、創造的な発信力や実践力を育成する。			学びや体験を通して将来の生き方や進路を明確にする。	

2-3. 児童生徒数の推移

児童生徒数は、減少傾向にあり、将来的にも減少が見込まれ、今後の児童生徒数は下記の表のとおりと予測されます。

	笛川小学校							笛川中学校				
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計	1 年生	2 年生	3 年生	合計	小中合計
令和6年度	16	25	21	19	35	20	136	24	23	23	70	206
令和7年度	20	16	27	23	19	35	140	20	25	23	68	208
	笛川学園											
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	8 年生	9 年生	合計		
令和8年度	15	20	16	27	23	19	35	20	25	200		
令和9年度	10	15	20	16	27	23	19	35	20	185		
令和10年度	11	10	15	20	16	27	23	19	35	176		
令和11年度	10	11	10	15	20	16	27	23	19	151		
令和12年度	9	10	11	10	15	20	16	27	23	141		

2-4. 学級数の推移

学級数は、通常学級は各学年1学級となります。特別支援学級を含めた学級数の推移は、下記の表のとおりと予測されます。

	笛川小学校					笛川中学校				
	通常学級	知的	自・情	肢体	難聴	通常学級	知的	自・情	肢体	難聴
令和6年度	6					3				
令和7年度	6	1	2	1	1	3	1	1		
	笛川学園									
	通常学級	知的	自・情	肢体	難聴	通常学級	知的	自・情	肢体	難聴
令和8年度	6	1	1	1	1	3	1	2		
令和9年度	6	1	1	1	1	3	1	2		
令和10年度	6	1	1	1		3	1	1		1
令和11年度	6	1	1			3	1	1	1	1
令和12年度	6	1	1			3	1	1	1	1

2-5. 教職員配置

義務教育学校開校に向けた実証・研究期間である令和7年度の笛川小学校・笛川中学校の教職員の配置状況と、今後、義務教育学校「笛川学園」として開校した令和8年度以降の、県費負担教職員の任命権者である山梨県教育委員会に要望していく教職員配置は、下記の表のとおりです。

	笛川小学校									笛川中学校						
	校長	教頭	教諭・基本	通級指導	専科加配	統合加配	その他加配	養護教諭	学校事務	校長	教頭	教諭・基本	きめ細加配	その他加配	養護教諭	学校事務
令和7年度	1	1	12	2.5	2	1	0	1	1	1	1	8	1	0	1	1
	笛川学園（分離型校舎）															
	副校長	教頭	教諭・基本	通級指導	専科加配	統合加配	その他加配	養護教諭	学校事務	校長	教頭	教諭・基本	きめ細加配	その他加配	養護教諭	学校事務
令和8年度	1	1	12	2.5	2	1	0	1	1	1	1	8	1	1	1	1
令和9年度	1	1	12	2.5	2	0	1	1	1	1	1	8	1	1	1	1
	笛川学園（一体型校舎）															
令和10年度	1	1	11	2.5	2	0	1	1	1	1	1	8	1	1	1	1
令和11年度	1	1	11	2.5	2	0	1	1	1	1	1	8	1	1	1	1
令和12年度	1	1	11	2.5	2	0	1	1	1	1	1	8	1	1	1	1

※赤字で標記した義務教育学校開校後の、教頭、専科加配、きめ細加配、その他加配、養護教諭、学校事務職員の配置数については、新しい学校形態となる義務教育学校として、その特色を生かした教育を行う上で、必要となる教職員の配置であります。任命権者である山梨県教育委員会での関係規則・規程の改正に合わせ、配置を強く要請していきます。

2-6. 通学区特認校制度の導入

義務教育学校として特色ある教育を推進していく「笛川学園」を、文部科学省の示す「通学区域制度の弾力的運用について」を受けた特認校と指定します。

(1) 通学区域

「笛川学園」については、従来の通学区域は残したまま、通学区域に関係なく、山梨市内のどこからでも就学を認めることとします。

(2) 特認入学の申請

特認校制度による特認入学（転入学を含む。）を希望する対象児童生徒の保護者は、特認校就学申請書を教育委員会が定める期日までに教育委員会に提出するものとします。

(3) 特認入学を認める条件

前項の申請を行おうとする保護者及び児童生徒は、次の条件をすべて満たしていなければなりません。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めた場合は、この限りではありません。

- ①山梨市内に住所を有している者、又は山梨市内に転入する予定のある者。
- ②保護者が、児童生徒が通学する特認校の教育活動やPTA活動等に賛同し、協力できること。
- ③通学は、保護者の責任において行うこと。

(4) その他

その他、特認校制度の詳細については、「山梨市特認校制度実施規則」で定めます。

2-7. スクールバスの運行計画

(1) 現在の運行状況

学 校	台数	運行会社	運行状況
			登校時・下校時
笛川小学校	3	笛吹観光	①中央道線（中牧、杣口） = 1台×2回（登下校） ②三富線（三富、隼） = 1台×2回（登下校） ③塩平線（西保地区） = 1台×2回（登下校） のべ6台
			<課題> ・下校時が各方面1便であるので、低学年生が乗車の為1時間ほど学校で待機している。
笛川中学校	3	栄和交通	①赤芝線（中牧） = 1台×2回（登下校） ②塩平線（西保、中牧） = 1台×2回（登下校） ③三富線（三富地区） = 1台×2回（登下校） のべ6台
			<課題> ・隼地区の生徒は、小学校時にはバス利用ができたが、中学校時には自転車通学となる。

*スクールバスの1日の運行台数 = 12台

(2) 笛川学園開校後の運行計画

笛川学園の運行計画				
学 校	台数	運行会社	運行計画	
			登校時	下校時
笛川学園	3	笛吹観光	①西保線 = 1 台	①1, 2 年生 (早便) = 2 台
			②中牧線 = 1 台	②3~6 年生 = 3 台
	3	栄和交通	③三富線 = 1 台	③7~9 年生 = 3 台
			④隼 線 = 1 台	*③便のうち 2 台は①便のバス
			のべ 4 台	のべ 8 台
	解決される課題		・ 下校時の便を増やすことで、低学年生が、発達段階に合わせた時間帯に下校することができる。 ・ 隼地区の中学校課程の生徒も、バス通学が可能となる。	

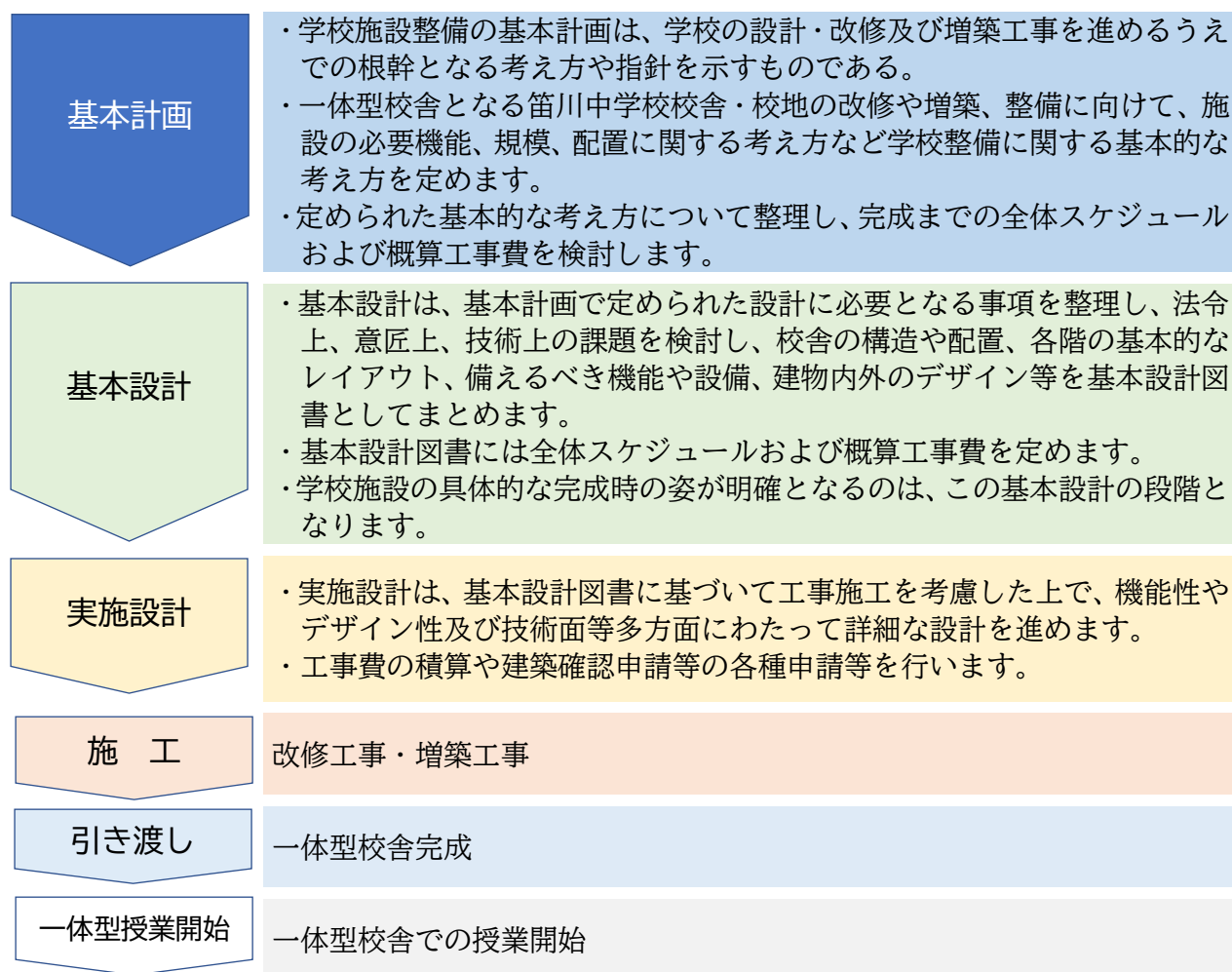
*スクールバスの 1 日の運行台数 = 12 台

※下校時の①～③便の方面については今後検討

第 3 章 学校施設の在り方

3-1. 学校施設整備の基本計画の位置づけ

本基本計画では、義務教育学校「笛川学園」の改修・増築に向けて、学校の規模や求められる機能等、学校整備に関する基本的な考え方について整理します。



3-2. 笛川中学校（義務教育学校計画候補地）の現状と課題

3-2-1 敷地概要

敷地は旧牧丘町中心部から北側に位置し、宅地と農地に囲まれた環境の中に立地しています。

(1) 敷地概要

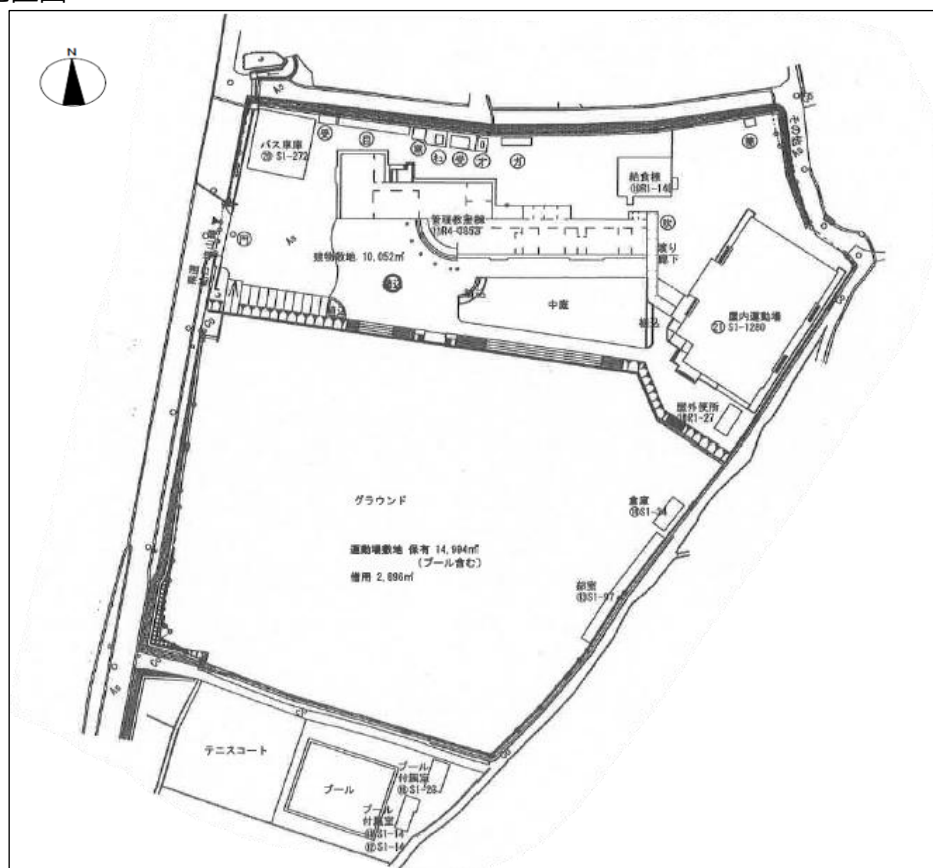
所在地：山梨市牧丘町窪平1100

敷地面積：10,052 m²

(2) 位置図



(3) 現況配置図



(4) 現況写真



校舎全景



西側校門より



南側校庭より

3-2-2 既存施設の概要と現況

(1) 学校施設の概要

名 称	校舎棟	屋内運動場	給食室	スクールバス車庫
延べ面積	3,853 m ²	1,280 m ²	148 m ²	272 m ²
構 造	RC造	鉄骨造	RC造	鉄骨造
階 数	地上4階	地上1階	地上1階	地上1階

(2) 教室数(R7年度)

普通教室	理科	音楽	美術	技術	家庭	コンピュータ	図書室	教育相談
11	2	1	1	1	2	1	1	2

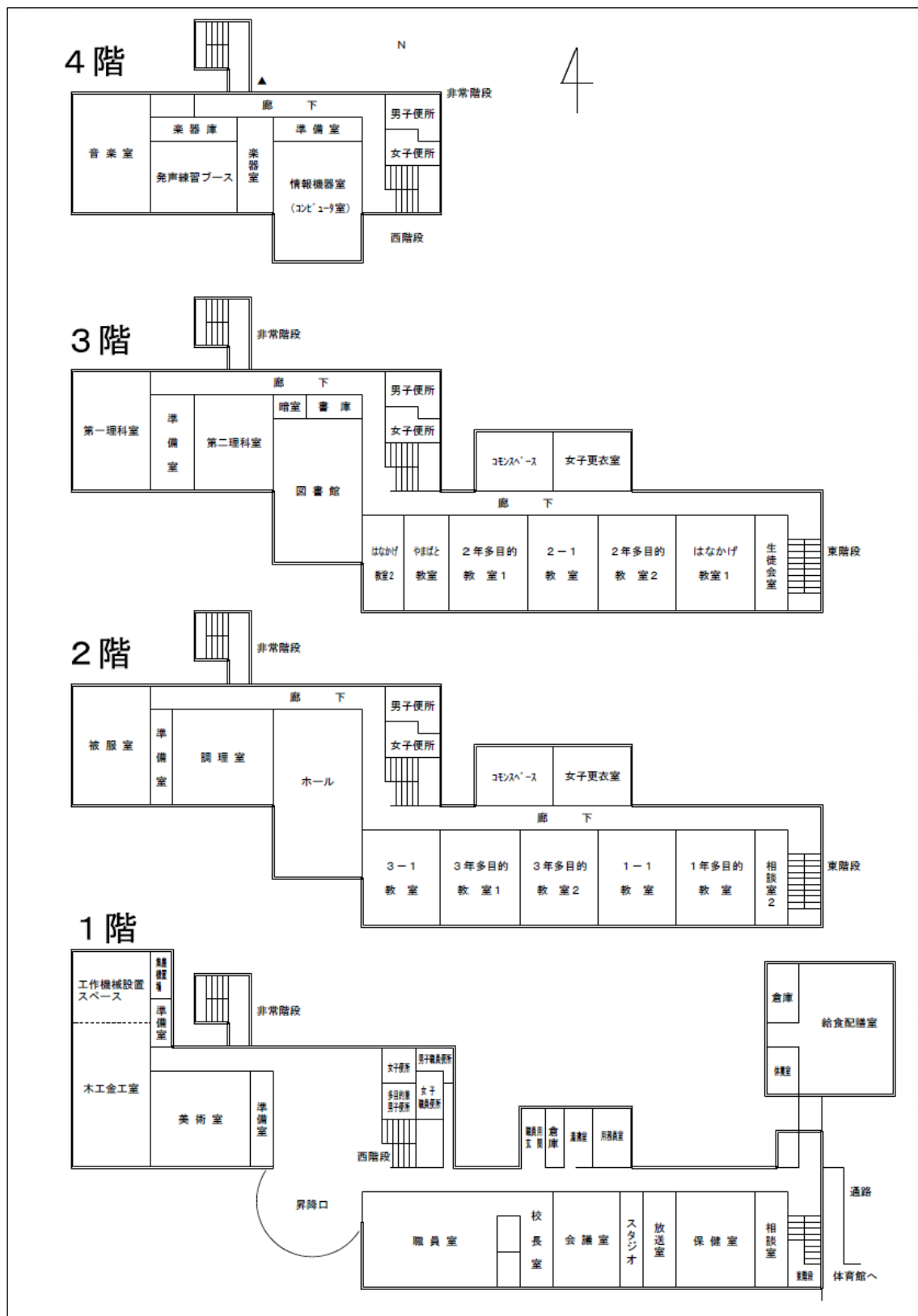
【管理諸室】

職員室、校長室、保健室、事務室、職員更衣室、放送室、倉庫、玄関、職員便所(男女)

【その他】

多目的ホール、児童昇降口、男子・女子便所、資料室、配膳室、給食室他

(3)校舎棟現況平面図



3-2-3 敷地と既存建物（笛川中学校校舎）の現況

■敷地

- ・敷地北西側にイベント時に利用可能な臨時駐車場があります。
- ・敷地内にスクールバスの駐車場があり、多くの生徒が通学時利用しています。
- ・近隣には住宅や果樹園等の農耕地、雑木林等があり、自然豊かな立地です。
- ・グラウンドゴルフなどの市民によるグラウンド利用や、「巨峰の丘マラソン」における参加者駐車場（グラウンドに約 500 台）・休憩所（体育館）として市イベントでの利用があります。
- ・敷地や敷地周囲には、多数の古い桜の木があり、敷地周辺の農道に、太くて大きな桜の枝が落下することがあるため、生徒は通行していませんが、その農道は、近隣住民も通行するため、桜の木の伐採を検討する必要があります。
- ・敷地北東の 100m ほど離れた場所に市教育委員会が管理するソフトテニスコートがあり、日常の部活動の活動場所として利用しています。

■校舎棟

- ・新耐震基準で建てられた築年数 3 4 年の建物は、外壁や廊下など経年劣化が見られ、改善を検討する必要があります。
- ・ICT の導入が進んでおり、高速通信ネットワーク及び 1 人 1 台端末が整備済みです。
- ・2 階、3 階の教室前の廊下には多目的スペースがあり、生徒・教師の交流スペースとして利用しています。
- ・昇降口前廊下に大会で獲得した盾、トロフィーなどの記念品を展示しています。
- ・保健室のベッド数は 2 人分です。
- ・職員用更衣室は、職員室向かい側に男女それぞれ設置してあります。
- ・1 人 1 台端末が導入されたため、現在、コンピュータ室は使用していません。

■体育館（屋内運動場）

- ・平成 1 8 年に新築されました。
- ・市民の社会体育などで利用があります。
- ・照明の LED 化は実施済みです。
- ・教育活動における猛暑対策や避難所として必要な機能となる、空調設備設置の必要性が検討されています。

■屋外トイレ

- ・市民利用があります。
- ・照明の LED 化は実施済みです。

■部室

- ・部室利用はないため、撤去を予定しており、撤去後は倉庫の設置を検討する必要があります。

■倉庫

- ・校地管理用器具を収納する倉庫や廃棄物置場のための倉庫が整備されています。

■グラウンド

- ・周囲には数件の住宅地や農耕地があります。
- ・市民の社会体育などで利用があります。
- ・グラウンド南側は水はけが悪く、水たまりができてしまうことから、表面に凹凸が生じているため、整備を検討する必要があります。
- ・生徒数や部活動数が少なく、小学校のように休み時間にグラウンドで活動する生徒が少ないことや、近隣に農耕地や雑木林が多いことも影響し、グラウンドに雑草が生えやすい状況です。

■屋外プール

- ・施設の老朽化に伴い、現在、体育の水泳授業は牧丘B & G海洋センターのプールで行っているため、屋外プールは使用していない状況です。学校でも除草を行っていますが、管理が行き届いておらず、雑草や虫が多く発生しています。このため、学校からは、近隣の住宅や農耕地への迷惑とならないよう、早期の解体・撤去の要望があります。

3-2-4 課題の整理

■安全性・耐用性の確保・維持

- ・校舎外壁の塗装が経年劣化により痛み、部分的に鉄筋が露出しているところがあるため補修を検討する必要があります。
- ・階段の蹴上寸法の基準が教育課程で異なるため、それぞれの基準を満たせるよう手摺や踏面の表面を整備する必要があります。
- ・防犯対策として、校舎への出入り口はすべて施錠できる状態になっています。生徒・来客用昇降口は常時施錠しており、カメラ付きインターホンが設置されているため、来校者の管理が可能となっていますが、さらに児童・生徒の安全性を高めるためには、防犯カメラの設置を検討する必要があります。
- ・児童・生徒の安全と利便性を確保するため、昇降口玄関の開錠及び施錠を職員室から遠隔で行えるように改修することを検討する必要があります。
- ・敷地東側にある道路脇の斜面が土砂災害危険箇所になっているため、安全性を確認し、必要に応じて補強工事を検討する必要があります。
- ・ソフトテニスコートの敷地が狭く、ベースラインから外側およびコートの間隔が狭いため、練習に支障をきたしています。さらに、校舎（職員室）から目の届かない場所にあり、テニスコートへ移動する際に公道を通行するため、危険性が懸念されます。これに加えて、防犯対策や生徒の健康面での安全性確保が課題となっています。これらの課題を解決し、安全性を確保して練習環境を改善するためには、校庭へのテニスコート移設の検討が必要です。
- ・老朽化した部室を撤去し、敷地の有効活用を行うとともに、部活動用具を保管する倉庫及び部活動の地域展開を見据えて、笛川学園グラウンドを本拠地として活動する生徒のための更衣室機能を兼ね備えた設備の設置を検討する必要があります。

■機能性・快適性の確保・維持

- ・聴覚過敏の生徒への配慮や清潔な教室環境保持の観点から、黒板のホワイトボード化を検討する必要があります。
- ・これからの多様な学習形態を可能とするため、教室のスペース確保を検討する必要があります。この観点から、各教室の石油ファンヒーターは利用していないため、撤去及び壁面の補修を検討する必要があります。
- ・各教室に設置されている生徒用ロッカーは一人分のスペースが狭く、生徒は不便さを感じていることや家庭と学校での荷物の持ち運びを軽減するためにも、校舎改修に伴いロッカーの交換を検討する必要があります。
- ・笛川学園の特色の一つである、問題発見・課題解決型探究学習を充実させるため、現在利用されていない情報機器室を改修し、探究学習活動室の設置を検討する必要があります。また、探究学習活動室内は生徒や教師が自由に交流し意見交換できるテーブル配置などのレイアウトについても検討する必要があります。
- ・ICT設備の導入は進められていますが、教育環境の変化に合わせてさらなる充実を図る必要があります。
- ・個に応じた特別支援教育を充実させるため、中期・後期課程の特別支援教室に所属する児童・生徒用に現図書館を仕切り、特別支援教室を3部屋増設することを検討する必要があります。
- ・現技術室北側の大型工作機械は今後使用しないため撤去、現技術室を改修して、読書・学習・情報センターとなる学校図書館の整備が必要です。小学校低学年の段階から読書の習慣をしっかりと身に付けられるようにするため、図書館の一部に読み聞かせスペースの設置を検討する必要があります。

- ・現在、家庭科は被服室と調理室の2教室を利用していますが、現調理室を改修し、家庭科室として統合し、現被服室は改修し、技術室として利用することを検討する必要があります。その際、どちらにも、器具等を格納する準備室の機能を果たすスペースの確保が必要になります。また、家庭科室には食器洗浄の利便性を考え、給湯設備の設置も検討する必要があります。
- ・新設を検討する家庭科室は、被服と調理の両方の機能を備えなければならない、作業スペース拡張のため作業台の改修（ガスコンロ部分への天板設置）を検討する必要があります。また、新設を検討する技術科室は作業台に電源が必要であるため、天井からの吊り下げる形のコンセント設置を検討する必要があります。
- ・3階第2理科室の隣には、現在は使用されていない現像室があります。この部屋内の流し台を撤去し、簡易倉庫として利用することを検討する必要があります。
- ・美術室の流し台の下棚が壊れているため、修理の必要があります。また、流し台がタイルで覆われており、絵の具などの汚れが落ちにくいいため、ステンレスに替えることを検討する必要があります。
- ・校舎2階の1教室を生徒用男子更衣室及び児童会室に改修し、もう1教室を資料室として活用することを検討する必要があります。なお、これらの部屋には棚を設置する必要があります。
- ・校舎3階の1教室を生徒用男子更衣室及び進路指導室に改修し、もう1教室を多目的教室として活用し、個に応じた学習支援や探究学習の充実及び、児童生徒用の会議室としての利用ができるようにしていくことを検討する必要があります。
- ・完全なバリアフリー化がなされていないため、改修の検討が必要です。
(体育館通路と接続している校舎1階東出口部分のスロープが必要です。)
- ・職員数が増加するため、現職員室を更衣室部分まで拡張することを検討する必要があります。また、改修された職員室はフリーアドレス仕様としたいため、現校長室を、職員のロッカー室（書類庫）として使用することを検討する必要があります。
- ・現会議室を校長室、応接室及びC Sの活動室として利用し、地域に開かれた学校を創っていくための一つの手段とすることを検討する必要があります。
- ・現在の放送室はほとんど利用がないため、放送設備は職員室内に簡易的なもの（アナウンスと音楽を流すことができる程度）を設置することとして、現在の放送室は改修し、職員の更衣室として活用することを検討する必要があります。
- ・生徒・来賓用昇降口北側に保護者の待合スペースのような場所を設置することを検討し、保護者同士や保護者と教員の交流スペースとして活用することを検討する必要があります。
- ・昇降口前の廊下に、大会で獲得した盾やトロフィーなどの記念品を展示している場所を、笛川小中学校の歴史を展示するスペースとして活用を検討する必要があります。
- ・現在、エレベーターは設置されていないため、車椅子の利用等で階段での移動が困難な生徒は、1階でリモート授業を受けている状況であります。そのため、児童生徒の移動の利便性やけがをした児童生徒が教室で授業を無理なく受けられるよう、エレベーターの設置を検討する必要があります。
- ・教室、廊下、トイレの窓のサッシにおいて、開閉不良の部分があるため、修繕を検討する必要があります。(別紙参照)
- ・現中学校校舎の昇降口扉をはじめ、多くの場所で建具の不具合があり、開閉に支障をきたしているため、建具の補修を検討する必要があります。(具体的な場所は別紙)
- ・グラウンドの整地及び補修について、検討が必要です。
- ・エアコンの効率を向上させるため、各教室のカーテンをブラインドに替えることを検討する必要があります。
- ・網戸が一部の窓にしかなく、スズメバチ等の昆虫が教室に入ってくることがあるため、校舎や体育館に、網戸の設置を検討する必要があります。
- ・避難場所としての快適性の向上も考え、体育館の空調設備の完備を検討する必要があります。
- ・生徒会室及び第2相談室、他へもエアコン設置を検討する必要があります。
- ・増築校舎を現校舎の東側に希望する場合、職員の駐車スペースの確保が必要となります。また、児童生徒の引き渡しを行う際に利便性を高めるため、芝生広場東側に自動車用通路を設けることを検討する必要があります。

- ・体育館の合唱台が鉄製で非常に重く、設置時に大変危険であり、生徒のけがを防止するために、アルミ製の軽量の合唱台に替えることを検討する必要があります。

■環境面の確保・維持

- ・敷地が広いことや学校の立地条件により、除草作業や庭木の刈り込み作業などは、多大な労力を必要とします。環境整備のための人員確保・器具の充実など、予算拡充が必要です。
- ・中学校には校庭遊具がないため、設置を検討する必要があります。設置場所として、増築校舎を現校舎東側の体育館との間の敷地に配置した場合、現校舎前の芝生広場に遊具を設置し、芝生等の整備を行うことで地域住民の憩いの場としての利用も考えられます。また、増築校舎が現校舎の南側芝生広場となった場合には、校庭の東側にある撤去予定の部室跡地に設置することを検討します。
- ・桜の老木が多く、枝の落下による事故を防ぐために、伐採を検討する必要があります。
- ・敷地上段と校庭の境にある斜面に雑草が生い茂るため、除草作業を頻繁に実施していますが、そのたびに斜面の土が流れ出してしまっています。これを防ぐために、斜面の舗装等の改修を検討する必要があります。
- ・職員数が増えることから、職員や来客の駐車場を約 40 台増設する必要があるため、校庭西側の舗装を検討する必要があります。

【駐車場の状況】	職員用	来客用	合計
①現在	24 台（うち軽自動車用 6 台）	10 台	34 台
②校舎一体化時の必要数	50 台	20 台	70 台
①と②の差（増設必要数）	26 台	10 台	36 台

- ・芝生広場を遊具置き場として残す場合、芝生広場にある時計が故障して動かないため、屋外活動時に時刻の把握ができません。このため、時計の修繕あるいは新しい時計の設置を検討する必要があります。また、芝生広場に増築校舎が建てられる場合については、屋外用の時計を新たに設置することを検討する必要があります。

第4章 施設計画の方針

4-1. 学校施設の施設整備の方針

文部科学省が令和4年3月に公表した「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の最終報告の中で掲げる「未来志向」をもった上で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）を参考にして、学校施設の在り方をまとめます。



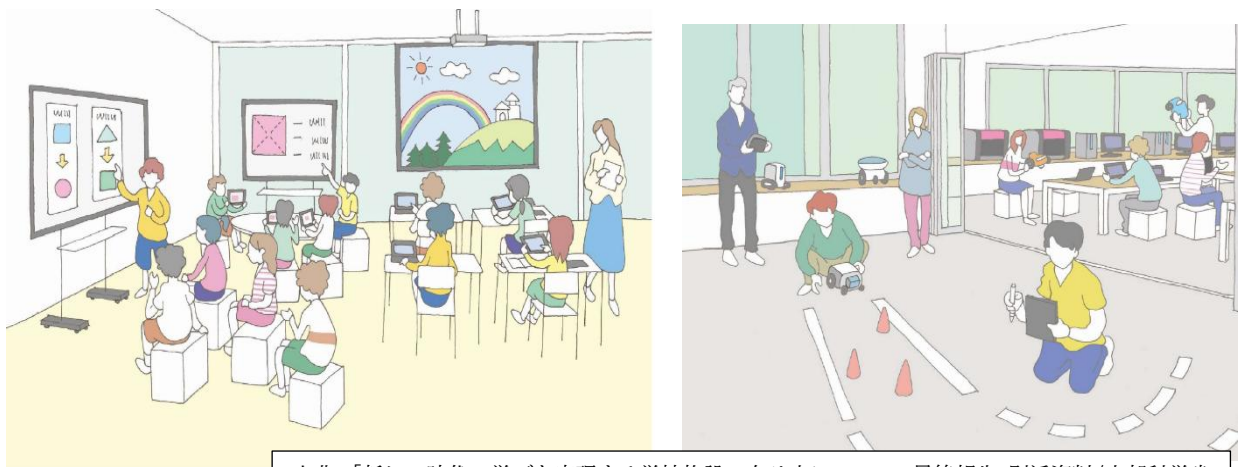
4-2. 学校施設的环境

学校は児童生徒にとって一日の時間の大半を過ごすことになる大切な空間です。児童生徒の心の健康づくりのためにも、豊かな学習・生活の場となるよう、ゆとりと潤いのある居心地のよい学校施設を目指し、子どもたちの居場所となる温かみのあるリビング空間づくりを推進する必要がある旨が、文部科学省からも提言されています。

「笛川学園」においても、下記に示す整備方針により、通いたくなり、ずっといたくなる学校づくりを推進します。

(1) 多様な学習活動を展開できる学習空間

問題発見・課題解決型の探究学習（笛川PBL）等、多様な学習活動に柔軟に対応できる学習空間の整備が重要であります。探究学習室や多目的スペースを有効に活かしていきます。

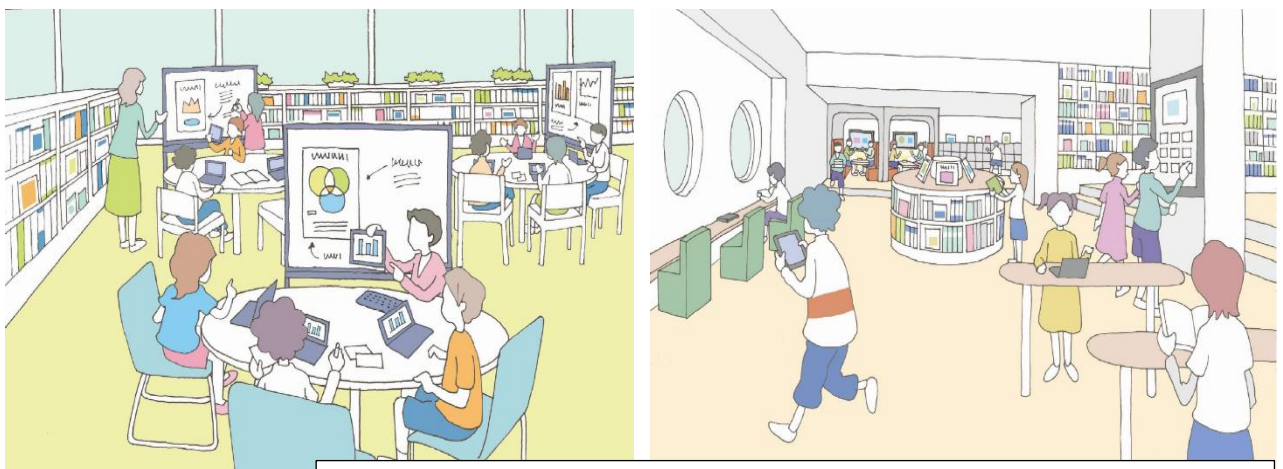


出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

(2) 読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備

学校図書館は、教室以外で子どもたちが学びを広げ、深めることができる魅力的な空間として整備していくことが重要です。

学校図書館を核とし、読書、学習、情報のセンターとなるよう整備を目指していきます。みんなが使いやすく訪れやすい空間を作ることによって、稼働率を高め、各教科等における調べ学習での活用や、子どもたちの自主的・自発的な学習、協働的な学習を促すことへつなげます。



出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

(3) 学校と地域が支え合い協働していくための共創空間

学校は地域コミュニティ形成の核となる等、多様な役割を担っていることを踏まえ、学校と地域や社会が連携・協働し、ともに創造的な活動を企画・立案したり、交流したりするための「共創空間」を生み出していく必要があります。

また、将来のまちづくりを見据えた地域の拠点としての役割や、地域の活性化・課題解決等の観点から、地域の人づくりや魅力向上のための基盤となる学校施設を核とした、他の公共施設との複合化や、施設・設備の共用化・集約化等を推進する必要があります。



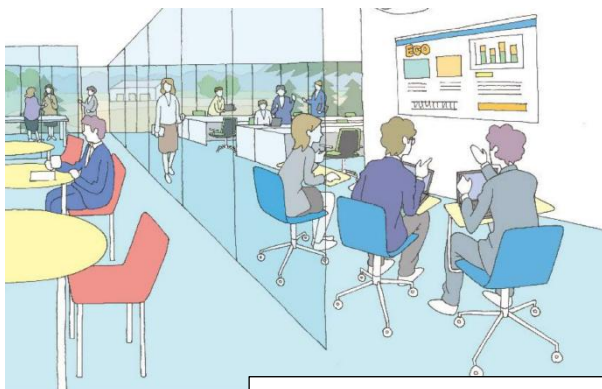
出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

(4) 学校における働き方改革を推進し、パフォーマンスを最大化するための執務空間

学校施設は児童生徒の学習・生活の場であるとともに、教職員が働く場でもあるため、授業を行う教室はもとより、職員室や準備室等においても、教職員がより効果的・効率的に授業の準備や研修、様々な校務等を行うことができるよう、執務環境としてふさわしい基本的な機能を確保します。

また、学年や教科等を超えた横断的な観点で学校全体を運営していくことや、支援スタッフの参画等、多様な人材による学校運営を進めていくことが求められていることから、多くの関係者と連携・交流ができる環境とすることが重要です。

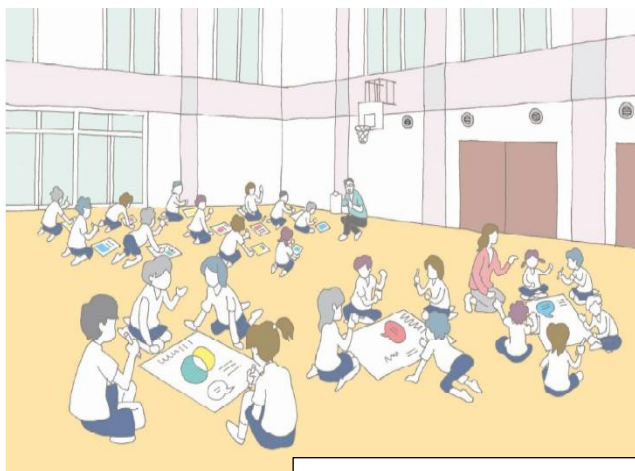
職員室は、教職員が円滑に執務、作業、打合せ等を行うことができるよう、十分なスペースを確保するとともに、統合型校務支援システム等を含め、常時 ICT が活用できる環境とし、フリーアドレスの職員室とします。



出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

(5) 健やかな学習生活空間と安心・安全な教育環境

断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、運動をはじめとする多様な活動が展開できる学習・生活空間として活用していく必要があります。また、災害時の避難施設として防災機能を強化していく必要もあります。



出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

(6) 多様な教育的ニーズに応える教育環境の整備と地域の憩いの場としての環境

学校施設（校庭）は児童生徒の学習・生活の場であるとともに、多様な教育的ニーズにこたえられる環境であることも求められます。併せて、地域の学校として、地域の方々や幼児の憩いの場であることも求められます。



岐阜市立藍川北学園（義務教育学校）

出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告 別添資料/文部科学省

4-3. 敷地条件・インフラ条件

計画敷地の条件は、以下のとおりとします。

項 目	内 容
所在地	山梨市牧丘町窪平 1 1 0 0
敷地面積	10,052 m ²
用途地域等	都市計画区域外
関係法令	山梨市景観条例、立地適正化、開発行為
インフラ条件	上水道：上水道 下水道：下水道 ガス：プロパン 電気：架空引込

4-4. 施設規模・施設構成

中学校から義務教育学校への変更を行うため、下記に示す諸室の増築を検討します。

また、山や川などの豊かな自然景観に囲まれ、恵まれた立地環境を活かして、のびのびと過ごせる良好な学習環境を整備します。

義務教育学校としての特色ある教育を推進するために、探究学習（笛川PBL）の学習室の整備や情報センターとしての図書館の整備、多様な学習形態に対応できる活動スペース等の設置も検討します。

■普通教室

- ・1学年1クラスとして、不足する前期課程の普通教室4教室の増築を検討します。
- ・前期課程の普通教室は、現中学校普通教室の4分の3程度の広さを確保するように検討します。
- ・前期課程の特別支援学級は、現中学校普通教室の2分の1程度の大きさを確保し、4クラス分の設置を検討します。
- ・中期課程以上の特別支援教室は、5年生から7年生分は現図書館を改修し、現教室の2分の1程度の広さを確保できるように検討します。
- ・現図書室の書籍格納場所を通級指導教室1として使用し、4階楽器庫を通級指導教室2として使用することを検討します。
- ・前期課程の特別支援教育の充実と児童の心の安定のため、増築部分に特別支援学級の在籍児童用活動室（Play Room）の設置を検討します。

○特別支援教育充実のための配慮

校舎3階の現図書室部分に特別支援学級用の教室を3部屋増設し、通級指導教室1を配置することで、中期課程・後期課程の特別支援教室が1か所に集中的に配置できる。また、現図書室内に特別支援教育センター的な場所の設置や交流スペースを配置することで、笛川学園の特別支援教育の充実を図ることができ、様々な特性を持った児童生徒への手厚い支援が可能になる。

■多様な学習活動を展開できる学習空間

- ・探究学習の拠点となる探究活動室を、各校舎に1部屋ずつ整備することを検討します。
- ・現校舎にある2箇所のコモンスペースの確保を検討します。
- ・山梨市が進めている「教科横断的・総合的学習」や「農業体験学習」の充実を図るため、給食等倉庫を改修し、みそ醸造室の設置を検討します。これにより、本校が伝統的地域人材と連携して行ってきた味噌づくりを発展させ、持続可能かつ特色ある取り組みとなるよう検討します。

■特別教室

- ・理科室、音楽室、図画工作室（美術室）、家庭科室、技術室等の設置を検討し、それぞれに準備室を計画します。

■学校図書館

- ・義務教育学校として学年を超えた交流を促進するため、図書スペースや交流スペースが充実した情報センターとしての学校図書館の整備の計画を検討します。

■職員室

- ・1つの学校として職員数が増加するに伴い、職員の執務スペースの増設を検討しています。
- ・フリーアドレスとし、教職員のパフォーマンスを最大化するための執務空間となるよう検討します。
- ・増築校舎内の児童の支援や緊急事態に迅速に対応できるよう、前期課程の職員執務室の設置を検討します。

■保健室

- ・児童生徒の発達段階を考慮し、現保健室は残し増築部への新設も検討します。
- ・増築校舎内に、4台のベッドを備えた前期課程用の保健室及びシャワー室の設置を検討します。

■トイレ

- ・増築校舎に、多目的トイレの設置を検討します。

■グラウンド・中庭

- ・多様な教育的ニーズに応える教育環境の整備と、地域の憩いの場としての環境整備を進めることを検討します。
- ・児童用の体育施設（鉄棒等）とテニスコートの設置を検討します。

■地域と学校の連携・協働のためのスペース（共創空間）

- ・学校教育に支障を及ぼさない範囲で利用できる地域のサロンのような場所を設け、学校を使用している時間帯も開放し、地域住民の方との交流ができる配置を検討します。
- ・安全管理上の観点から、不特定の者の侵入を防ぐための安全対策を講じるよう検討します。

■体育館（屋内運動場）

- ・バスケットゴールは、小・中学生両方の高さに対応できる現在の状態の保持を検討します。
- ・児童生徒の熱中症対策と避難所となった場合を想定し、空調設備の設置を検討します。

■プール

- ・授業では牧丘B&G海洋センターのプールを利用するため、撤去を検討します。

■テニスコート

- ・2面の競技面をグラウンドに確保することを検討します。

■部室

- ・部室の撤去を検討します。

4-5. 配置計画の方針

配置計画・動線計画について検討をする際に以下について重視します。

(1) 既存施設の活用方針について

- ・既存の校舎、屋内運動場、スクールバス車庫、給食室、駐車場、グラウンドは現状の位置のままの活用を検討します。
- ・車両アクセスについては現状を踏襲することとして、給食室や屋内運動場等への搬出入の際には、校舎北側の通路から車両が通行できるよう検討します。
- ・来客者・職員の増に伴い、駐車場整備を検討します。

(2) 増築想定箇所の検討

- ・義務教育学校として9カ年の連続した学びの実現するため、増築スペースは既存校舎との連絡性を高める必要があります。
- ・校舎廻りを基に増築を検討することとします。

(3) 学童の配置検討

- ・学童については、敷地外の既存施設を利用しますが、今後、学校敷地内に建設するかを継続して検討します。

4-6. 平面計画の方針

増築部分には普通教室を配置し、既存部分に変更に伴う改修を行い、普通教室及び特別教室の整備を検討します。

なお、今後の基本設計・実施設計を進める中で、再度調整を行うこととします。

また、増築部分は木造化も検討するなど、自然に囲まれてのびのび過ごすことのできる充実した学習環境の実現に向けた空間整備を行います。

4-7. 構造計画の整備方針

既存校舎、給食室および屋内運動場は新耐震基準で建築され、長寿命化の要件を満たしている建物となります。

既存校舎は、耐震壁付きラーメン構造を採用しており、柱・梁及び RC の壁面も耐力を負担する構造です。

改修計画では、基本的に柱、梁及び耐震壁は変更せず、壁に関しても極力 RC 雑壁を避けて計画し、構造躯体に影響を及ぼさない計画とすることを基本とします。

計画上やむを得ず RC 雑壁にあたる箇所を撤去する場合は、建物の構造計算もしくは耐震診断を再度やり直して安全を確かめる必要があり、耐震補強を実施する可能性があります。

4-8. 設備計画の整備方針

当該施設の方針や条件を考慮し、電気設備・機械設備について計画します。

(1) 最先端及び時代の変化に対応できる

- ・ ICT 設備は整備済みですが、教育環境の変化に合わせて更なる拡充を検討します。

(2) 維持管理費を想定した経済的な設備

- ・ イニシャルコストやランニングコストを検討した上で、信頼性や操作性が高く、メンテナンスや更新性に配慮した機器の採用を検討します。

(3) 自然エネルギーを活用し環境に配慮した設備

- ・ エコスクールの概念を取り入れ、周囲の恵まれた自然と共生できる設備を取り入れるとともに、高効率の機器や器具の採用により、環境に配慮した計画を検討します。

(4) 安全・安心を守る設備

- ・ 災害時の避難施設として開放する屋内運動場は、防災計画を踏まえて必要な機能や設備の整備を検討します。

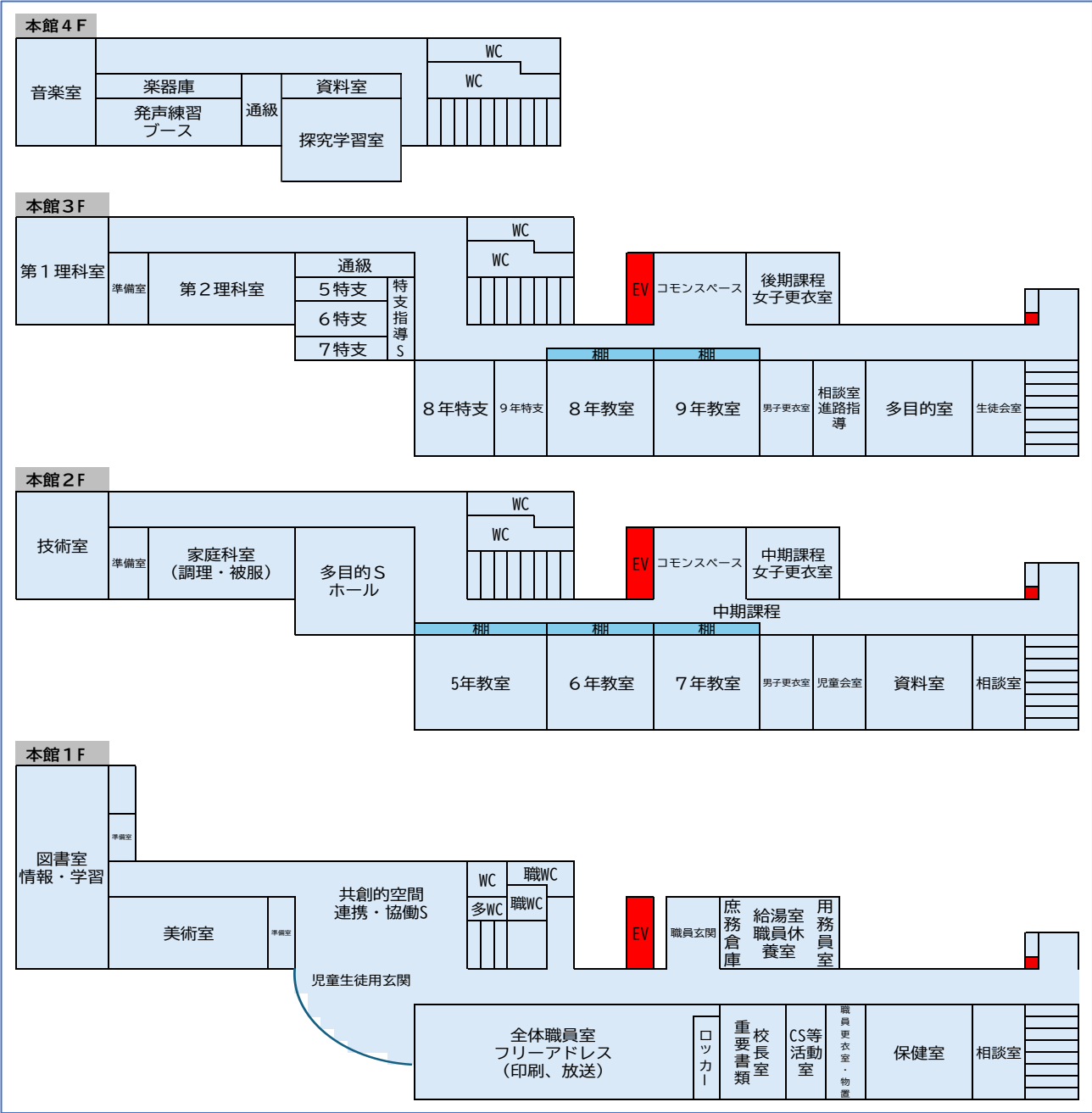
(5) 感染症対策

- ・ 中間期の自然換気を促すことが出来る計画を検討します。

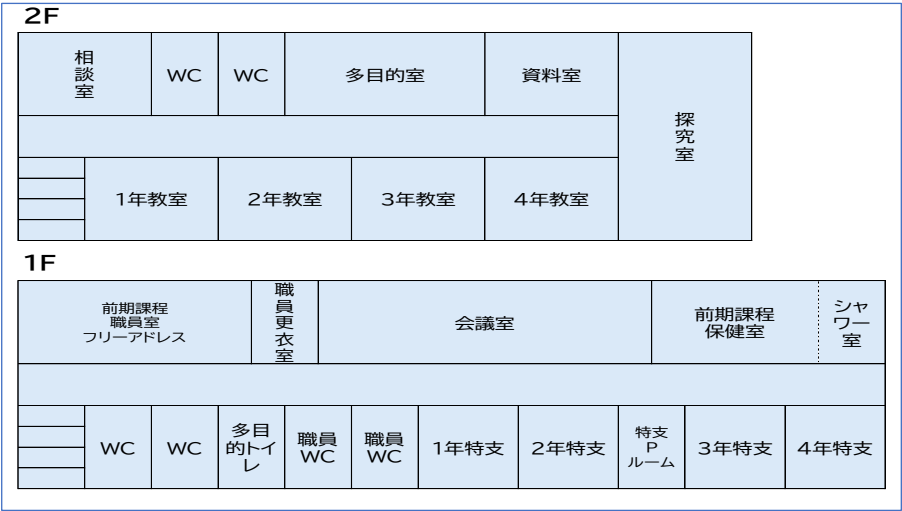
計画建物に必要な諸室を以下のとおりまとめます。

室名等	計画室数		計画規模	優先度	備 考	
普通教室	9	改修側	5	5	A	5～9年生 1学年1学級×5学年分
		増築側	4	4		1～4年生 1学年1学級×4学年分 (広さは改修側の75%でも可)
特別支援学級	9	改修側	5	2.5	A	少人数教室4部屋のうち2部屋は既存 残り3部屋を現図書室 可動間仕切り使用
		増築側	4	2		少人数教室
通級指導教室	4	改修側	4	2	A	現図書館書籍収蔵室を改修(0.5)4階(0.5) 現会議室(0.5×2)可動式パテーションで区切る
コモンスペース	2	改修側	2	1	A	現有
多目的スペース	3	改修側	2	3	A	2階ホール 2階普通教室を可動式パテーションで区切り多 目的室に改修
		増築側	1	1.5	A	2階に多目的室
特別の支援を 必要とする児 童のため の指 導上必要なそ 他の空間	2	改修側	1	0.5	A	情緒障害、自閉症やADHD等の障害のある児童・ 生徒が落ち着きを取り戻す ことのできる小規 模な空間、個別学習や小集団による学習のため の空間 新設特別支援教室前のスペース 特別 支援教育センター(可動式間仕切り)
		増築側	1	0.5	A	情緒障害、自閉症やADHD等の障害のある児童が 落ち着きを取り戻す ことのできる小規模な空 間、個別学習や小集団による学習のための空間 (プレールーム)
理科教室	2	改修側	2	2	A	理科準備室
音楽教室	1	改修側	1	1.5	A	音楽準備室 発声練習スペース 楽器庫
技術教室	1	改修側	1	1.5	A	現被服室を改修
家庭科教室	1	改修側	1	1.5	A	現調理室を改修
図書室	1	改修側	1	1.5	A	現技術科教室を改修 メディアセンター、楽手 センター、収蔵室、準備室、読み聞かせスペース
資料室	3	改修側	2	1.5	A	既存普通教室、現情報機器準備室
		増築側	1	1		
探究活動室	2	改修側	1	2	A	現中学校校舎4階情報機器室
		増築側	1	1		
特別活動室	2	改修側	2	1	A	生徒会室2階 3階普通教室を間仕切りして児 童会室
女子児童・生徒 更衣室	2	改修側	2	1	A	現中学校校舎2・3階既存 ロッカー整備
男子児童・生徒 更衣室	2	改修側	2	1	A	中学校校舎2階進路指導室と区切る 3階児童 会室と区切る
児童生徒用昇 降口	1				A	9学年全員の昇降口

室名等	計画室数			計画規模	優先度	備 考
渡り廊下	2				A	現在の生徒用昇降口から1階に1本、東側2階に1本
共創スペース	1	改修側	1		A	
職員玄関	1	改修側	1		A	現職員玄関を使用下駄箱の増設
職員室	1		1	2.5	A	
印刷スペース	1				A	職員室内
職員用書庫	1		1	0.5	A	
庶務倉庫	2		1	0.5	A	改修側は既存
			1	0.5	A	職員室隣接
校長室	1		1	0.5	A	
職員更衣室	2		2	1	A	男女各1部屋
給湯室	2	改修側	1	0.3	A	既存
		増築側	1	0.3	A	
職員休憩室	1		1	0.5	B	
放送スペース	1		1	0.1	A	職員室内
会議室	1		1	2	A	
CS 等活動室	1		1	0.5	A	
相談室	3	改修側	3	1.5	A	改修側2・3階既存 進路相談室2階男子更衣室と区切る
		増築側	1	0.5	B	
保健室	2	改修側	1	1	A	現保健室使用
		増築側	1	1		シャワー室設置 ベッド4台
エレベーター	1	改修側	1	-	A	
配膳室	1	改修側	1	2	A	既存配膳室利用
(みそ醸造室)	1	改修側	1	0.5	A	既存配膳室内に設置



【増築部】



○増築校舎が現校舎南側に配置された場合の学校からの要望

- ・給食ワゴンを各教室へ分配するためおよび、前期課程児童の図書室及び特別教室への移動経路の確保のため南館（新館）と北館（現中学校校舎）の接続部分の検討する必要がある。（改修側現生徒用昇降口との接続、改修側2階東階段部分と増設側2階部分の接続）
- ・保健室からの救急搬送経路および引き渡し時の車の運行経路確保のため、北館と南館の間に車が通れる通路を確保することを検討する必要がある。
- ・増築側校舎の非常階段の必要性。
- ・職員の駐車スペースとして体育館西側を舗装することを検討する必要がある。
- ・児童生徒用玄関の位置を検討する必要がある。
 - ⇒増設側に児童生徒用の昇降口および来賓用昇降口を造る。
 - ⇒中期課程以降の児童生徒が改修側校舎にスムーズに移動できるよう新昇降口は、増築側校舎西側に設置し、改修側校舎への渡り廊下を設置。
- ・職員玄関は駐車場からの移動を考慮した場合、改修側現職員玄関の下駄箱を増設し利用することを検討する必要がある。
- ・現職員室の東側更衣室の壁を取り払い、大会議室として使用すること、および、校長室をCS等の活動室として使用することを検討する必要がある。
- ・改修側現会議室を区切り多目的スペースとして活用することを検討する必要がある。
- ・校長室は増築側に新設される職員室の隣に配置することを検討する必要がある。
- ・職員室がフリーアドレスとなるため、職員室隣に職員用書庫（ロッカー）の設置を検討する必要がある。
- ・職員の更衣室は南館（新館）に配置を検討する必要がある。
- ・庶務倉庫は改修側に設置されている現在の部屋以外に増築側校舎の職員室に隣接した場所にも配置することを検討する必要がある。（職員の作業効率と中期課程児童生徒の利便性を考える）
- ・部室棟を解体し、その跡地を小学部児童用の遊具設置場所と地域住民の交流広場として利用することを検討する必要がある。
- ・聴覚過敏の児童生徒への合理的配慮として、各教室（特別教室も含む）のホワイトボード化を検討する必要がある。
- ・現在、エコース学習の一環として、無農薬有機栽培の大豆を生産し、集荷された大豆を利用し味噌づくりを行っている。この学習を進化させ、製造販売までの経験をPBLの一環として取り組んでいくために、旧給食室のスペースと施設を活用した味噌の醸造所を設けることを検討する必要がある。
- ・増築側の校舎が広くできるのであれば前期課程の普通教室を前期課程児童がのびのび活動できるように狭くするのではなく改修側校舎の普通教室と同程度の広さにすることを検討する必要がある。（可能であれば）
- ・可能であれば増築側に通級指導教室（相談室）を2配置（広さはそれぞれ通常教室の半分）することを検討して欲しい。

第5章 事業スケジュール

5. 一体型開校までの事業スケジュール（案）

一体型開校までのおおむねの事業スケジュール（案）を別紙のとおり示します。

なお、現時点における設計・施工分離発注方式（従来方式）による案であり、今後の検討に伴い変更の可能性があります。工事工期について、資材の調達状況によっては工期変動の可能性があります。